

令和6年度 学校自己評価システムシート（さいたま市立 土合 中学校）

学校番号 210

【様式】

目指す学校像	「生徒が通いたい、保護者が通わせたい、職員が働きたい、地域が応援したい学校」 ○笑顔あふれる学校 ○あいさつの飛び交う学校 ○歌声の響く学校		
重点目標	1 誰一人取り残さない多様な学びを実現し、真の学力の基礎を身に付けた生徒の育成 2 生徒が自分に自信をもち、自己肯定感を高める指導の推進 3 保護者、地域との信頼関係のもと、学校を核とした持続可能なスクール・コミュニティの構築 4 一人ひとりがもてる力を発揮する、【well-being】な教職員集団の確立		

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達	A	ほぼ達成	（8割以上）
成	B	概ね達成	（6割以上）
度	C	変化の兆し	（4割以上）
	D	不十分	（4割未満）

学 校 自 己 評 価							学校運営協議会による評価
年 度 目 標							実施日令和7年2月14日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	【現状】 ○R5 全国学力・学習状況調査、さいたま市学習状況調査では、全国平均は上回っているが、市平均は下回っている。 ○R5 さいたま市学習状況調査では、「各教科の授業の内容はよく分かりますか」の肯定的な回答の割合は、教科によっては市の平均を下回っている。 【課題】 ○R5 学校評価（生徒）「授業に一生懸命取り組んでいる」の肯定的な回答の割合は88.2%であったが、学校評価（保護者）「分かりやすい授業の工夫」64.6%と顕著な差が見られる。 ○ステップアップルーム（Sola る一む）を利用している生徒も多く、オンライン授業を含めた学習環境の整備も課題の一つである。	・学力向けた教職員の指導力向上に関する取組 ・学びの自律化に向けた情報端末の活用・授業改善	①全国や市の学習状況調査などのエビデンスを活用し、本校の課題解決のための授業力向上研修の実施（年2回以上） ②中学校区の児童のデータを活用し、学力向上カウンセリング学校訪問を実施し、入学前、入学当初に現状把握を行い、授業の工夫改善を図る。	①令和6年度学校評価の保護者アンケート「分かりやすい授業の工夫」の項目における肯定的な回答70%以上を達成できたか。 ②市教委の学力向上カウンセリング学校訪問を実施し、授業改善を図ることができたか。	○学力向上に向けた取組により、評価指標の①は73%となり達成することができた。エビデンスを活用した授業力向上研修の実施はできなかったが、教職員相互の公開授業を11月～2月に実施し、指導力向上を図った。 ○中学校区の児童のデータを活用したことで、学力の現状把握をすることができ、授業計画の改善に役立てることができた。 ○全国学力・学習状況調査では、昨年度同様に全国平均を上回るものの市の平均は下回った。	A	○学力向上に向けて、今年度実施した学力向上カウンセリング学校訪問を活用し、全中学校区の小学生段階のデータを用いて、分析したものをもとに、授業改善まで繋げられるような研修を進めていきたい。また、学習状況調査の活用は進んでいないため、エビデンスに基づいた授業計画が立てられるように教科会の充実を図りたい。
2	【現状】 ○心的不安やストレスを抱えた長欠生徒が多く、自傷行為等のある心配な生徒が複数名いる。 ○心と生活のアンケート結果からも、「解決スキル」「信頼自己」の得点が低く、要面談に該当する生徒が各学級に複数名点在し、学校全体で生徒の自己肯定感を高める手立てを取ることが必須である。 【課題】 ○生徒一人ひとりの状況をていねいに把握して、生徒・保護者への初動・初期対応をスピーディーかつ組織的に行うことに課題が残る。 ○複数の生徒への対応、重要・重大事案の対応を同時期に行うことを迫られ、教職員が疲弊している。	・危機管理の徹底と初期対応とスピーディーで組織的な対応 ・それぞれの生徒・保護者の思いを受け止め寄り添い、誠実に対応する支援体制の実働	①「ほめて育てる」（認め、励まし、支える）声掛け、指導・助言の在り方を全教職員で共有し、実践する。 ②本物に触れる体験活動を実施し、本気で取り組むことで得られる達成感や成就感に気づかせ、本気で取り組もうとする生徒を育成する。	①学校評価に係る生徒、保護者アンケートの関連する項目で、肯定的な回答を9割以上の生徒・保護者から得ることができたか。 ②プロによる本物に触れる授業や行事の実施ができたか。	○学校評価保護者「保健、安全、衛生について」の項目では肯定的な回答の割合は81%、「組織的な対応」では73%となり目標に届かなかった。しかし、「学校が楽しい」と感じる生徒は92%となり、きめ細かい対応の成果が表れた。 ○未未来の先生を活用し、本物に触れる教育活動を実施することができた。	B	○多様な生徒がいる中、生徒一人ひとりにより一層寄り添った指導が必要である。特に、配慮を要する生徒への対応を学校全体で検討する場を設け、担任、学年が抱えないようにしていく。 ○行事の精選もあるが、本物に触れる体験は生徒のキャリア教育にも繋がるため、次年度は学校全体へと広げていく。
3	【現状】 ○PTAと連携し情報発信アプリを活用して効果的に学校からの情報を発信している。 ○学校運営協議会において保護者、地域と連携し、目指す生徒像の実現に向けて積極的な熟議を積み重ねた。地域も協力的であり、学校との連携は図れている。 【課題】 ○学校HPには保護者への通知文やお知らせが不十分なため、内容を従事させ、より積極的に学校の取組を発信し、家庭、地域の理解と協力を求めていく必要がある。 ○学校運営協議会への生徒の参加が実施できておらず、地域と生徒が意見交換をする場を作る必要がある。	・開かれた学校づくりに関する取組 ・学校運営協議会を基盤とし家庭、地域と連携を密にした特色ある学校づくりに関する取組	①学校ホームページに、学校運営協議会及びSNSの情報を発信するページを作成し「目指す生徒の姿」を広く共有できるようにするとともに、保護者通知も広く共有できるようにする。 ②地域の方に教育活動を観ていただき、学校の教育活動や生徒の成長に係る関心を高める。	①保護者への学校評価アンケート「積極的な情報発信」の項目における肯定的な回答95%以上を達成できたか。 ②毎学期の学校公開の実施ができたか。	○学校評価保護者「積極的な情報発信」では96%となり、目標を達成することができた。しかしながら、情報発信のデジタル化は進んでいないため、次年度への課題としたい。 ○学校公開は予定通り、学期に1回以上実施することができた。保護者の参観数も多く、学校運営協議会委員も数多く参観している。	A	○PTAのアプリと連携を図りながら、情報発信のデジタル化は進めていく。次年度はHPの活用をメインとして積極的な情報発信を行っていく。 ○次年度は土曜授業の減少もあるため、毎学期の学校公開を行いつつ、学校公開週間も設け積極的に公開していく。
4	【現状】 ○教職員事故撲滅に向けて管理職等から継続した声掛けや研修等の実施、必要に応じた指導を行っているが、家庭から不安の声が聴かれる場面が見られる。 ○経験の浅い教員も多く、指導力や社会力に差があるため、生徒の指導や保護者対応に苦慮する場面もある。 【課題】 ○教職員一人ひとりが人権意識を高め、より主体的に温かみのある指導を実践する必要がある。 ○ベテラン教員による若手教員への指導、支援が少なく、若手教員の業務圧迫によって心身に影響を与える場面がある。	・一人ひとりの多様な幸せ（Well-being）を大切にする学校づくりの推進	①教職員事故防止に向けて新聞記事の活用や指導及び事例研修を年5回以上実施する。 ②外部講師を招き人権意識を高める教職員向けの研修会を実施する。 ③若手教員育成のため、管理職に加え、ミドルリーダーに指導・支援の役割をあたえる。	①学校評価（教職員）「和を大切にし、明るく活力のある職場づくりに努めているか。」の項目において、3.0以上達成できたか。 ②管理職等による若手教員への面談の実施ができたか。（毎学期）	○学校評価教職員「和を大切にし、明るく活力のある職場づくりに努めているか。」では、2.91%となり目標を達成することができなかった。学校の伝統と時代の流れとのギャップもあるため、次年度解決していきたい。また、教職員数も多いため、横のつながりがもてるよう学年の枠を超える、なミドルリーダー存在を育成していきたい。 ○定期的若手教員への面談は実施することができた。教職員同士の人間関係が原因で不安定な時期もあったが、個別の対応や他の教職員のサポートもあり、解決することができた。	B	○経験の浅い教員への丁寧な指導・助言はもとより、中堅教員への指導・助言を次年度は進めていき、ミドルリーダーとしての自覚を促していく。また、運営委員会を通し、横の連携の重要性を再確認させ、学年だけ、担任だけで解決するのではなく、全体で解決する意識を高めていく。 ○教職員事故については、いつでも起こりうる可能性があるため、細かい部分でも教職員に繰り返し指導していく。また、伝達研修だけではなく、実践形式の研修も模索していく。

○学校が楽しいと感じている生徒が9割以上という結果は大変素晴らしいものである。
○教員が上から言う時代ではないため、褒めて育てるなど、メリハリのある指導は大変重要なことである。
○本物に触れる体験は生徒にとっても非常に有意義なため、積極的に進めていただきたい。
○生徒指導の職員研修会を何回か開催し、最近の非遵行為を適切に指導できる体制を整えていく必要がある。

○HPの更新が遅く、幅広く積極的な情報公開ができているとは言えない。今後は、HPの更新の頻度や掲載する内容等工夫・改善が必要である。また、HPから情報を得る保護者や地域の方がいるので、その点も考慮した内容としていただきたい。

○学校公開週間は、より取組である。小学校の教員も参観できると中学校の様子がわかってよいのではないか。
○生徒参加型の学校運営協議会は新しい取組であり、積極的に進めていただきたい。

○職員室での情報共有が大事である。個人で対応するのではなく、学年・学校全体で協議・検討していく必要がある。
○若手の先生の学習・生徒指導の力を向上させ、ベテランの先生のICT能力向上の両方を進めることは難しいことではあるが、バランスを取りながら少しずつ進めていただきたい。
○教員としてはもちろん、社会人としてのマナーは若い先生には大切なことである。